

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 15 (R3. 8. 30発行) 文責 校長 福田雅也

2学期スタートにあたり

夏休みが終わり、校舎に子供たちの元気な声が帰ってきました。やはり、学校には子供たちの活気が必要です。

しかし、今年の2学期はいつもとは大きく違ったスタートとなりました。もちろん、原因は新型コロナウイルス感染症の影響です。変異株が全国的な拡がりとなり、熊本県も例外ではない状況です。しかも、これまではあまり感染しなかった小中学生に感染者が増加しています。熊本市はオンライン授業を併用した分散登校でのスタートとなりました。今後、本校関係者にも陽性者が発生することが十分に考えられる状況です。1学期の終わり時点とは大きく状況が変化し、過去最大の危機を迎えていると認識しています。しかも、この状況がしばらく続くことは間違いないうえに、いつまで続くのか不透明であることがその危機感をさらに大きなものにしています。

当然ながら、教育活動にも影響が出ており、9月14日～15日に予定しておりました5年生の集団宿泊学習は残念ながら中止せざるを得ませんでした。（代替の体験学習的行事を検討中）学校行事は大切な教育活動ですので、今後も可能な限り実施する方向で進めていくつもりですが、状況によっては、今回のように直前で中止や変更を行わなければいけないことが考えられます。また、突然の休校・学級閉鎖決定という状況も視野に入れておかなければいけません。

ただ、学校として子どもたちを守るためにできることは、これまで以上に感染予防策を徹底させることしかありません。学校の感染予防策につきましては、別に通知文を出しております。御家庭にお願いしなければいけない部分もありますので、その内容も含め、各御家庭のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

話は変わりますが、この時期、コロナウイルス感染症とは別に毎年心配していることがあります。それは、夏休み明けの子どもたちの心の不安定さです。ここから先は2年前にも同様の記事を書いた内容です。マスコミでも取り上げられているように、今の時期に青少年の自殺が増える傾向があります。内閣府が2015年6月に公表した自殺対策白書によると、18歳以下の自殺者数について過去40年ほどにわたり日別に調べた結果、9月1日が131人と突出して多い人数でした。その前後も、9月2日が94人、8月31日が92人など、夏休み明け前後に増える傾向が分かっています。原因は、休み明けというギャップに、いじめ等の友人関係の不安が加わり、「学校に行かなくてはいけない」気持ちと「学校に行きたくない気持ち」の葛藤がより大きくなるのだろうと考えられます。その整理がつかない場合に、自殺という選択肢が浮かび上がってくるのだと思います。

このように、この時期に子供たちの心が不安定になることは当然考えられることです。私たちは、子供たちのちょっとした変化や、ふとした表情から垣間見える不安を見逃さないようにしなければいけません。

本校の子供たちについて大きく心配しているわけではありませんが、この面にはしっかりとした対応が必要だと考えています。具体的には、各担任に子供たちの様子をいつも以上に丁寧につかむように話しました。何より大切なのは、この数日間で、子供たちのつぶやきや様子、提出物等から、心に不安がある子供を早めに把握し、早めの対応をとることだと考えているのです。上記以外に私はこの時期、必ず職員にお願いすることがあります。それは、子供たちがあまり大きなギャップを感じないよう緩やかなスタートを意識してほしいということです。「緩やかなスタート」、漠然としています。まずは教師の心に十分なゆとりがあることが一番大切だと考えています。そして、具体的にできることとしては、次のようなことを考えています。しばらくは、夏休みに楽しかったことを伝え合ったり、プールで思い切り遊んだりして、「明日学校に行けば、〇時間目が楽しみだな」と思えるような時間を設定すること。そして、宿題が終わっていない子供には、終わっていないことを責めるのではなく、その子の状況や気持ちに寄り添いながら、時間がかかってもいいので「宿題を終わらせた」という達成感だけは味わわせること等です。それらの時間を確保するために、9月1日までは全校5時間授業として、放課後に自由な時間を確保しています。私たち大人の心にゆとりがあれば、子供たちも少しは安心できるのではないのでしょうか。そして、子供たちの様子をより冷静に見つめることができるのではないのでしょうか。コロナ禍の中ではありますが、高木小学校は、ゆとりをもった緩やかなスタートができればと考えています。

御家庭でも、子供たちの様子に少しでも気になることがあれば、すぐに担任までお知らせいただければと思います。